

Ischemic brain lesions after carotid artery stenting increase future cerebrovascular risk.

Gensicke H, van der Worp HB, Nederkoorn PJ, Macdonald S, Gaines PA, van der Lugt A, Mali WP, Lyrer PA, Peters N, Featherstone RL, de Borst GJ, Engelter ST, Brown MM, Bonati LH ; ICSS-MRI Substudy Investigators.

J Am Coll Cardiol. 2015 Feb 17;65(6):521-9.

【背景および目的】 頸動脈ステント留置術(carotid artery stenting:CAS) または頸動脈内膜剥離(carotid endarterectomy:CEA)後、頭部 MRI で拡散強調画像(diffusion-weighted imaging:DWI)上、虚血性病変を認める場合がある。しかし、その病的意義に関しては不明な部分が多い。

【方法】 ICSS (International Carotid Stenting Study)におけるサブ解析において、症候性頸動脈狭窄患者 231 人に対して CAS 施行群 (n = 124) と CEA 施行群 (n = 107)にランダムに分け、頭部 MRI を術前の 1～7 日前と術後 1～3 日に施行した。1 次エンドポイントを脳卒中または一過性脳虚血発作とし、術後 MRI にて新たな虚血性病変を認めた DWI 陽性群および認めなかった DWI 陰性群に分け解析した。

【結果】

フォローアップ期間の中央値は 4.1 年 (4 分位範囲: 3.0 to 5.2 年) であり、CAS 施行群では、脳卒中再発または一過性脳虚血発作は DWI 陽性群において DWI 陰性群に比し有意に多かった。CAS 施行群における、DWI 陰性群に対する DWI 陽性群における脳卒中再発または一過性脳虚血発作発症に対するハザード比は 2.85 倍であった(95%信頼区間:1.05 to 7.72; p = 0.04)。CEA 施行群では、脳卒中再発または一過性脳虚血発作は DWI 陽性群と DWI 陰性群にいて有意差を認めなかった。

【結語】CAS 後の DWI における虚血性病変の出現は脳卒中再発の有意なマーカーであるといえる。CAS 後の脳卒中予防を考えた場合、術後の新規病変を MRI により検索することはリスクの層別化に寄与することが示唆される。今後、このような対象に対して、どのような抗血小板薬を、どの程度、そして、どの長さで投与すべきかを検討することにより、再発予防に結び付く可能性が期待される。